

登録コード:MH135200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	母性看護方法論 2年【22M以降】 Maternity Nursing Methodology		
担当教員	芳賀 亜紀子 徳武 千足・中込 さと子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 後期 月曜・1時限 月曜・2時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科 3 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		妊産褥婦・新生児の生理的変化・正常からの逸脱について理解し、対象者の特性と家族の変化に応じた支援をするための知識・技術・態度を獲得し、活用できる
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		妊産褥婦・新生児の特性と家族の変化をふまえた課題を把握し、課題解決に向かって思考し、実行する意欲を獲得する
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	妊娠・出産・子育て期にある親と子並びにその家族に対して看護ケアを提供する上で必要な知識・技術・態度について学習し、母親並びにそのパートナーと子どもがより健康なレベルに到達できるような看護実践のために必要な基礎的な能力を獲得します。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。本授業は、2年次前期に学んだ「母性看護学概論」の知識を前提とし、2年次後期の「母性看護健康論」と連動して相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は3年次の母性看護学実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の周産期医療における看護師・助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	回（日付） 授業内容：リーディング課題（テキスト下記参照）（担当） 第1-2回（9月28日）妊婦の看護(1)(2) テキスト3：P27-75（芳賀） 第3-4回（10月5日）妊婦の看護(3)(4) テキスト3：P76-92 テキスト4：P52-74（芳賀） 第5-6回（10月14日(水)）妊婦の看護(5)(6) テキスト3：P94-132、テキスト4：P24-52、74-76（芳賀）<小テスト> 第7-8回（10月19日）産婦の看護(1)(2) テキスト3：P134-160 テキスト4：P78-89（徳武） 第9-10回（10月26日）産婦の看護(3)(4) テキスト3：P161-172 テキスト4：P89-100（徳武） 第11-12回（11月2日）産婦の看護(5)(6) テキスト3：P174-212 テキスト4：101-131(徳武)<小テスト> 第13-14回（11月9日）新生児の看護(1)(2) テキスト3：3：P297-308(芳賀) 第15-16回（11月16日）新生児の看護(3)(4) テキスト3：P308-322、テキスト4：P186-193(芳賀) 第17回（11月26日（木））新生児の看護(5)テキスト3：P323-360(芳賀)、<小テスト> 第18回（11月26日（木））褥婦の看護(1)P216-225(徳武) 第19-20回（11月30日）褥婦の看護(2)(3)テキスト3：P216-225(徳武) 第21-22回（12月7日）褥婦の看護(4)(5) テキスト3：P225-239,244-282 テキスト4：P140-155,161-184(徳武) 第23回（12月14日）褥婦の看護(6) テキスト3：P239-244,284-291 テキスト4：P131-137,143-161(徳武)、<小テスト> 第23-24回（12月14日）周産期医療システムと災害時の支援、看護過程導入、授業アンケート(芳賀) テキスト3：P362-370 第25回（12月21日）期末試験（全範囲）		
授業の進め方	事例を用いてワーク形式で進めていきます。母性看護健康論で学ぶ医学的知識の習得等と本講義で母性看護への理解を深めます。 ＊第1回に本科目で扱う事例に関する資料を配布しますので、A4サイズのフラットファイル（2穴、最大150枚収容）を1冊持参してください。		
テキスト，教材，参考書	1. 病気がみえる Vol.10 産科（メディックメディア） 2. 病気がみえる Vol.9 婦人科（メディックメディア） 3. ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護の実践（メディカ出版） 4. ナーシング・グラフィカ 母性看護学 母性看護技術（メディカ出版） 上記をテキストとして指定（母性看護健康論と同様のテキスト） 参考図書 ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程、大田操編著、医歯薬出版。 その他、教材として、資料を適宜配付します。（基本はe-ALPS）		
成績評価の方法	1) 期末試験100点(芳賀50点、徳武50点) 期末試験は、各教員配点分を全て6割以上獲得することで合格とする。 2) 小テスト（妊娠10/14、分娩11/2、新生児11/26、産褥12/14）		

成績評価の方法	1) 期末試験得点を8割換算、2) 小テスト平均点を2割換算で総合得点60点以上を合格とします。 結果については実施後にフィードバックを行います。
成績評価の基準	テストの最終評価基準 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可、60点以上の得点を合格。 テストの場合は、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」
事前事後学習の内容	事前学習（リーディング課題）を課します。授業計画の欄を参考にしてください。授業開始直後にその理解を問う確認テストを行うので、それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間46時間（2時間×23回）+自己学習時間44時間（2時間×22回）=90時間 *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問は講義中もしくは終了後にいつでもして下さい。 相談などは、各担当にメールをお願いします。 芳賀亜紀子：akihaga@shinshu-u.ac.jp、徳武千足：ctokuta@shinshu-u.ac.jp 研究室は中校舎3階にあります。